

様式 1 【申し合わせ事項】 【委員会、全協：共通様式】

令和 7 年 8 月 6 日

東員町議会

南部 豊 様

東員町議会

伊藤まり

研 修 報 告 書

研修期間	令和 7 年 8 月 6 日(水) 【1 日間】
研修（視察）先	いなべ市議会棟 2 階
目的（テーマ等）	議会における事務事業評価について
資料添付の有無	なし

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。

## 様式1【申し合わせ事項】：【委員会、全協：共通様式】

[氏名：伊藤まり ]

### 研修概要、内容、所感

【研修概要】いなべ市で、議長、副議長、事務局から事務事業評価の手法を拝聴した。その後、議場を見学した。

#### 【内容】

- ・ 事業評価は、年間サイクルで実施されている。総合計画の基本事業を選び、そこに紐づくすべての事務事業を検証する。
- ・ 議会内で討議を重ねて合意形成する。その際、会派があるので効果的に意見を反映させられる。
- ・ 評価結果を事業に反映するため行政と話し合いを重ねて、行政側が納得できるように進めている。
- ・ 議員間討議による合意形成の過程で、議会全体が一つのチームとして機能するようになる。
- ・ こうした事務事業評価が、市民の声を行政施策に反映させる仕組みであり、市の発展に寄与できる。

#### 【所感】【提案 | 標準偏差の採用】

いなべ市の事業評価は、書面評価だけでなく、行政・議会が対話して、実質的な事業改善を図っている点が印象的だった。事業を改善できれば議員が有用感を感じ、議会活動が活性化する。結果として市民にとって良い市政になると思う。市民としては、モニターにせよ意見交換会にせよ、意見募集で終わらず、事業評価を通して市政に関われる所以、より市政に関心を持つと思う。

『質疑』を拝聴して考えたことを提案いたします。

【質疑の内容】 多くの議員が高得点をつけても、ひとりでも極端に低い点をつけると、平均値が下がり、評価点が低くなる。逆もある、という意味の質疑があったと思います。

【提案】 平均点だけで評価するのではなく、標準偏差(点数のばらつき)を取り入れてはどうか。平均点と標準偏差を併用して評価することを提案する。

標準偏差を加えれば、予算配分や事業の見直しに、統計的根拠を加えられる。

- ・ 標準偏差が小さい事業は、議員の多くから評価を得ているという統計的根拠になる。よって、例えば、標準偏差が小さく高得点であれば、幅広い議員

に評価される施策として、税の配分を優先して実施すべき事業という根拠になる。

- 標準偏差が大きい事業は、議員によって評価が異なり、賛否が分かれる傾向にあるので、事業内容や運営を検討すべきという根拠になる。

以上